

7. 交流イベント

57. はままつ友愛のさと祭り

活動分野	交流イベント	活動に参加している障害者			
		障害種別	身体・知的	年齢	18～64歳
活動地域	静岡県浜松市	実施主体 【社会福祉法人】	名称:社会福祉法人 障害者生活介護施設「ふれんず」 住所:静岡県浜松市浜北区高園 775 - 1 電話:053-586-8803 fax:053-586-7824		

活動概要

施設を利用する障害のある人たちと地域の人たちとの交流を図り、お互いの理解を深めるため、毎年7月に、「はままつ友愛のさと祭り」を開催しており、毎年、家族連れなど多くの人で賑わう。

会場内では、施設を利用する障害のある人たちが作った授産製品(折り染め、レザー、陶磁器など)が販売されるほか、障害のある人が施設の創作活動などで取り組んでいる作業(折り染め、レザー製品制作など)の体験、車椅子体験や外部講師を招いての講演会、ミニコンサート、バザーなどがある。



これらのイベントを通じて、施設の活動を地域の人たちに広く知ってもらっている。また、障害のある人たちも参加し、来場した地域の人たちとふれあい、交流を深めている。

活動を始めた背景・経緯

施設の開所1周年を記念し、その活動を広く市民に知ってもらうために1993年に始めた。

活動目的

施設を地域の人たちに開放し、障害のある人及び地域の人々が祭りに参加することで、施設の機能について理解してもらうこと。また、祭りを楽しむことを通じて障害のある人とない人の交流の場になること。

活動の成果又は効果

- ・毎年、多くの市民や施設利用者が参加し、好評を得ている。2009年には来場者数が約1700人に上った。
- ・施設利用者が企画を催す側に参加し、市民と広く交流を持てる場になっている。

活動を継続する上で工夫した点

- ・多くの人に参加してもらうため、広報に案内を載せたり地域のセンターなどにポスターを貼らせてもらったりして、PRに力を入れている。
- ・地域の団体(企業、ガールスカウト、地元中学校PTA、他施設など)に協力してもらい、主催者側の人手不足を補っている。



活動を継続する上での課題

- ・夏の開催のため暑く、開催時間の課題がある。お昼を休憩にしたり、午後から夕方までの開催にするなど、何度か開催時間を変更しているが、常に課題が残される。
- ・毎年、参加者が増えており、駐車場が足りない。

共生社会実践活動として今後予定しているもの又は実施してみたいもの

祭り以外での地域の人たちとの交流

実施体制

- ・職員:84名 ボランティア:190名
- ・他団体(企業2、ガールスカウト1)とオープニング演奏等の企画や駐車場整理で連携・協力している。
- ・駐車場については隣地工場などにも協力してもらっている。



キーワード

祭り、地域との交流、協力

58. 吉野川フェスティバルでのTシャツペイント大会

活動分野	交流イベント 授産製品等PR	活動に参加している障害者			
		障害種別	身体・知的	年齢	18～64歳
活動地域	徳島県徳島市	実施主体 [NPO]	名称:NPO 法人 とくしま障害者授産支援協議会 住所:徳島県徳島市南庄町5丁目77番地3 電話:088-632-1333 fax:088-632-0082 URL :http://www.arunjo.com/		

活動概要

県の「応援します 家族のきずなオンリーワン事業」の一環として、イベント吉野川フェスティバルにおいてTシャツペイント大会を開催し、子育て家族と障害のある人たちの交流を図った。

フェスティバルの来た親子に、Tシャツにすきな絵等を書いてもらい、それを障害のある人やボランティアの人たちが手伝うことにより、障害のある人たちと子育て家族の間で自然なふれあいが生まれた。

また、授産活動のPRを兼ね、各種授産商品の販売も行った。

- ・活動日:平成21年7月31日～年8月2日(3日間)
- ・参加人数(スタッフを除く):知的障害のある人3人、身体障害のある人3人、障害のない人20人
- ・補助金:20万円(県こども未来課)



活動を始めた背景・経緯

以前より、効果的に授産活動を地域住民に知ってもらう方法を模索していた。

毎年行われる吉野川フェスティバルは、徳島県で行われる夏のイベントとして定着しているため、協議会より吉野川フェスティバル実行委員会代表へ参加依頼を行い、承諾を得たので、良い機会と思い始めて参加した。

活動目的

吉野川フェスティバルに来た親子に子供用Tシャツをプレゼントし、家族で楽しんで絵等をTシャツに書いてもらい、それを障害のある人やボランティアの人たちが手伝うことにより、協議会を構成する授産施設と地域の親子との交流を図る。同時に、アンケートを行い授産活動について理解してもらう。



活動の成果又は効果

Tシャツをプレゼントするイベントを計画し、どれくらいの親子が利用するか心配であったが、予想していたよりも反響が大きく、用意していたTシャツが足らなかった。

アンケートを集計した結果、障害のある人や障害者施設に対してある程度の理解はあるものの、多くのイベント等を通じ広くPRする必要があると感じた。

活動を継続する上で工夫した点

- ・多くの親子連れに参加を促すため、チラシや呼び込みを行い、また、参加した親子に記念品をプレゼントした。
- ・真夏のイベントであり、障害のある人やボランティアの体調管理に気を配った。
- ・親の了解を得て、完成したTシャツと親子の記念写真を撮り、協議会のホームページにアップした。

活動を継続する上での課題

- ・思っていた以上に幼児の参加が多かったので、次回以降は幼児用Tシャツの枚数を増やすこと。
- ・こどもに絵を描いてもらうと時間がかかるため、待ち時間が長くなった。スペースを確保するとともに、親にも絵の手伝いをしてもらい時間の短縮を図る。
- ・炎天下のため、障害のある人やボランティアの体調を考え、配置する人員のローテーションを配慮する。

共生社会実践活動として今後予定しているもの又は実施してみたいもの

- ・障害者施設のPRや障害のある人への理解を促すとともに、授産商品の共同販売を行い、工賃アップを図るイベントを実施したい。
- ・県内の集客の多い施設でのイベント等を行いたい。
- ・来年も吉野川フェスティバルに参加し、障害のある人や授産施設の現状を紹介し、併せて、共同販売を行い工賃アップにつなげるイベントにしたい。

実施体制

知的障害のある人3人、身体障害のある人3人
スタッフ6名、ボランティア20名
吉野川フェスティバル実行委員会
活動経費 423,000円

キーワード

地域とのふれあい、授産活動PR、障害のある人の親睦



59. たんぽぽ工房まつり

活動分野	交流イベント	活動に参加している障害者		
		障害種別	身体・知的・精神	年齢
活動地域	愛媛県西予市	実施主体 [NPO]	名称:NPO 法人 れんげ草 地域活動支援センター たんぽぽ工房 住所:愛媛県西予市野村町野村 12 - 15 電話:0894-72-3582 fax:0894-72-3582 URL : http://www.shikoku.ne.jp/e-selp/jigyousyo/325.htm	18 歳以上

活動概要

NPO 法人れんげ草は、主に西予市内の障害のある人の社会参加促進を目指し、市内2ヶ所の地域活動支援センターの運営などを行っているが、障害のある人と地域住民との交流を通して、地域住民の障害への理解を深めるために、毎年7月に「たんぽぽ工房まつり」を開催している。

まつりの運営に当たっては、地域の「精神保健ボランティアグループ」の会員にも協力してもらい、交流を深めている。



< イベント内容 > (2009 年)

- ・そうめん流し
- ・ゲーム(輪投げ・ボールすくい)
- ・関係機関の自主製品等の販売や関連会社のバザー 等

活動を始めた背景・経緯

地域の人たちに障害のある人の作業所や障害のある人への理解を深めてもらうために、地域の人たちとふれあい、交流できるようなイベントをしてはどうかと行政から提案があり、運営委員会で検討した結果、子供が参加できる夏休みを利用して、そうめん流しをメインとした「たんぽぽ工房まつり」を2001年より開催している。

活動目的

ノーマライゼーションの理念の下、障害のある人との交流を通じて、地域の人たちに障害のある人への理解を深めてもらうことを目的とする。



活動の成果又は効果

市内外から大勢の人たちが参加しており、年々来場者数が増加傾向にある。2009年は358人の参加があった。

また、多くの来場者と接することで、作業所で働く障害のある人の自信となるとともに、障害のある人に対する偏見等が軽減され、住みよい地域づくりに繋がっている。

活動を継続する上で工夫した点

- ・支援者の高齢化等により、会場準備や販売に携わる人材が不足していたが、地元高校生に協力を要請し、テントの設営や接客にボランティアとして参加、協力してもらった。
- ・その他、まつりの実施に当たっては、家族会、病院、地域活動支援センター、行政、地域有志等とも協力・連携を図っている。
- ・広報誌・生活情報誌・新聞折込み・ポスター・ちらし配布等、幅広くPR活動を行った。

活動を継続する上での課題

- ・雨天時の開催について、天候に関係なく開催できる場所の確保
- ・準備・片付け等の協力者の不足
- ・支援(スポンサー)機関の開拓
- ・障害のある人の意識や意欲の向上

共生社会実践活動として今後予定しているもの又は実施してみたいもの

- ・地域イベントへのボランティア参加
- ・地域で行われるバザー等への参加
- ・独居老人世帯への支援(粗大ゴミ等の処分等)
- ・ピアサポーターとしての活動



実施体制

- ・運営委員:22名
- ・その他前日当日協力機関:病院4、地域活動支援センター3、家族会1、精神保健ボランティアグループ1、高校1、行政(県及び市)、個人ボランティア等
- ・経費:約10万円(2009年)
(当該活動に係わっている機関等は、センターの運営委員でもあり、常に運営等について連携を図っている。)

キーワード

共存、共有、理解

